

研究機関：広島大学

研究課題名	膵癌切除例における BRCA1、BRCA2 発現の予後に与える影響について
研究責任者名	広島大学大学院医系科学研究科外科学 教授 高橋 信也
研究期間	2022 年 9 月 5 日(倫理委員会承認後) ~ 2024 年 12 月 31 日
対象者	2003 年 1 月から 2019 年 12 月の間に、広島大学病院消化器外科診療科で膵癌による治療を受けた患者さん。
意義・目的	画像診断の進歩による切除可能な膵癌の増加、外科手術手技の向上、新規抗癌薬の導入などにより膵癌の生存率は徐々に向上してきていますが、それでも膵癌切除例の 5 年生存率は、30%程度と非常に予後不良の悪性腫瘍であります。近年、BRCA1、BRCA2 遺伝子変異陽性膵癌患者に対する化学療法維持療法で、オラパリブの有用性が示されました。日本人患者における BRCA1、BRCA2 発現の頻度や予後について調べた報告はありません。今回、BRCA1、BRCA2 発現の頻度や予後について明らかにすることを本研究の目的としました。
方法	研究者が所属する消化器外科内の診療録等の過去の診療情報を用いて、専ら集計、簡単な統計処理を行う研究です。研究に用いるデータは病期、病理組織診断、血液検査等であり、研究は同一施設内に限り情報は外部には提供しません。また、保管されている切除標本の切片を IHC 法を用いて染色し、BRCA1/BRCA2 の発現による予後や病理学的特徴を調べます。ヒトゲノム・遺伝子解析には該当しません。また、個人を特定可能な情報は解析に用いません。
共同研究機関	なし
試料・情報の管理責任者	広島大学院医系科学研究科外科学 教授 高橋 信也
個人情報の保護について	調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。
問合せ・苦情等の窓口	〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3 Tel : 082-257-5216 広島大学院医系科学研究科外科学 職名 助教 住吉 辰朗、大学院生 倉岡 憲正